



SAIE かわら版

国籍を超え、相互理解を深め、「つながり・きずな」を大切に

参加者募集！

SAIE主催
イベント

社会見学2026

淡路島パソナグループ訪問とお香作り体験

日程：5月27日(水) 午前9時出発

(午後5時30分解散予定)

集合：午前8時45分

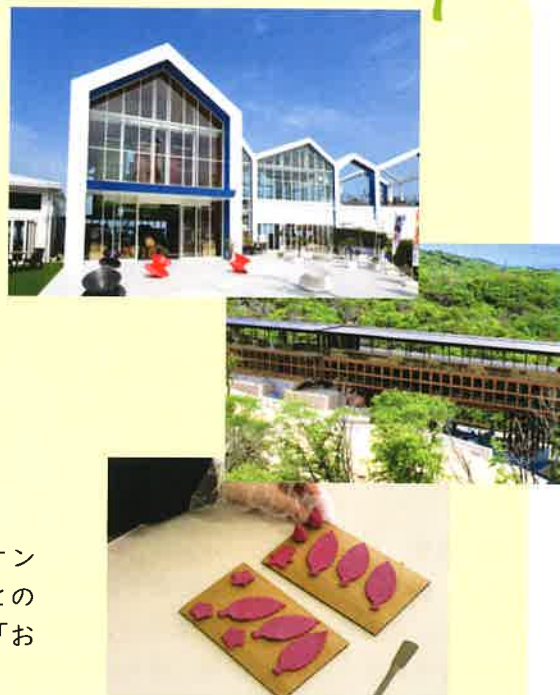
ポリテクセンター関西（摂津市役所隣）

参加費：協会会員4,000円 一般8,000円

定員：40名

申込：協会まで電話・先着

今年の社会見学の目玉は、昨年大阪万博で人気を博したパビリオン「パソナグループ」への訪問です。淡路島で働く外国人スタッフとの交流や施設の視察（車窓より）、そして淡路島の伝統工芸である「お香作り」を体験します。島の海の幸・山の幸も堪能してください。



参加者募集！

SAIE主催
イベント

国際理解講座

「ニュータウン」から見る世界の「似ている／違う」まちと暮らし



「ニュータウン」は「新しい町」ではありません。20世紀初頭から、ある共通のセオリーで造られた「計画的な町の仲間」。ルーツはイギリス。いい環境で、仕事があって、誰でも暮らせる

理想的な町をセットで造りたい。そんな考え方は国と時代を超えて共有され、アレンジされながら世界中に広がりました。きれいだけれど単調で、非人間的でツマラナイ？いえいえ！それは見に行ってみないと、わかりませんよね？

日程：6月16日(火) 午後1時半～3時

講師：奥居 武さん

(一般財団法人千里パブリックデザイン理事長)

場所：コミュニティプラザ会議室1・2

定員：25名

参加費：無料

申込：協会まで電話・メールで受付

講師からのメッセージ

日本最初の大規模ニュータウン「千里ニュータウン」で育ってしまいました。ニュータウンは、私にとって「自分の人生」です。この町は、どうやら「普通の町」とは違うらしい…なにもかも理想的になるように計画された町。(住民の人生は、自分の人生は「理想的」になったのか?)

この町はお隣の町とは違うけれど、遠くにある「他のニュータウン」に行ってみると、驚くほどそっくりだったりする。日本中に「仲間のニュータウン」がある！そして海外にも！ヨーロッパからアメリカへ、そして日本へ、アジアへ、中東へ。まちなみが似ていれば、人々の暮らしもどこか似ている。それはまるでDNAの不思議を見ているよう。自分の町と似ている町を探しに海外へ行くと、変わりますか？



イベント報告

国際理解講座

ホセッチから聞こう、文化の違いって面白い！



～アメリカから来て20年、日本で家庭を築いた僕が語る国際交流～



講師：ホゼア・ペーカーさん

(同志社大学大学院・グローバルスタディ研究科)

開催日：1月29日(木) 午後1時半～3時

開催場所：コミュニティプラザ会議室1・2

参加者：20名

「文化の違いを感じ理解をしていくのにはとてつもない時間がかかる。20年以上も日本に住んでいるが今もまだ勉強中だし、これからずっと勉強だ」と話をされたホゼアさん。来日当初いつでも日本から逃げ出すことができる様、引き出しに航空チケット代金20万円をしまっていたそうです。様々な困難を乗り越えその20万円を使わずに済んだのは、自分の居場所であるコミュニティが支えになってくれたからだとおっしゃっていました。

【Radical Hope (ラディカルホープ)】

先が見えず困難な状況にあっても、「それでも未来には何か意味がある」と信じる希望

ホゼアさん曰く「つらくて、わからなくて、『もうやめたい』と思うときでも、すぐに諦めずに、その場所や人と関わり続けようとする希望」のことです。それは、「なんとかかなるでしょ」という軽い楽観主義ではありません。自分には、揺るぎない土台(アイデンティティ・信仰・支えてくれるコミュニティ)があるから、時間はかかっても、ここで良いものを築けるはずだと信じて関わり続ける力です。

参加者の感想

- 素晴らしい内容でした。共生社会を築いていくコミュニティと思考が必要だと思いました。
- ホゼアさんには英語会話でお世話になりました。ご自身のルーツを大事にされておられることは、その時感じていましたが、日本に来られた理由ははじめて知りました。
- 「面白い」というよりは、とても切実な話でした。Good!
- ホセッチさんには、万博ボランティアの研修でもお会いして、楽しくためになる話だったので今日も来ました。“Radical Hope”とても印象深かったです。

日本語支援ボランティア養成講座

教えるって、伝えるって？日本語教師のリアル

～教えるってこんなに面白い！“伝える”を通じて広がる世界～

講師：山田 麻美さん (CET アカデミックプログラムアシスタントアカデミックディレクター兼日本語専任講師)

松本 耕太郎さん (CET アカデミックプログラムアシスタントアカデミックディレクター兼日本語専任講師)

外賀 葵さん (CET アカデミックプログラム日本語専任講師)

開催日：2月12日(木) 午後2時～3時半

開催場所：コミュニティプラザ会議室4

参加者：20名



講師からは、学生と向き合う際の心構えやCETの活動についてお話を伺いました。学生主体の授業や日本文化を学んで発表する場をつくるのが特徴です。講師の方々が日本語教師を目指したきっかけを伺った後、具体的な授業内容も教えていただきました。「場所」「スポーツ」といったテーマを決めてリズムに乗りながらそのカテゴリーの単語を繋いでいく活動では、出てくる言葉から学生の文化背景が見えて、新たな発見があるそうです。学生だけでなく、講師側の世界も同時に広がっていく様子が伝わりました。参加者には「連想しりとり」や「カテゴリー」のレッスンを体験していただきました。

せつ日本語SAIE・日本語サロン合同イベント そば打ち体験～いっしょにつくりましょう！～

発表者：^{あきのり}吉村昭範さん（手打ちそば^{いほり}庵）
 開催日：1月13日（火）午前10時～11時半
 開催場所：コミュニティプラザ調理室
 参加者：13名（うち外国人学習者2名：インドネシア、ネパール）

一般的に、日本では年末に年越し蕎麦を食べる風習があります。そんなお蕎麦が
 つくられるまでを体験しました。蕎麦粉に水を加えて、捏ねて、伸ばして、普段
 使うことのない蕎麦包丁も使って楽しみました。

参加者の感想

●とてもべんきょうになりました。たのしかったです。またいろんなイベントにさんかしたいとおもっています。

ボランティアの感想

●はじめてそば打ちをしました。とても丁寧、親切な指導で大満足です。お蕎麦を食べるのが楽しみです。



日本語教室ボランティア交流会

開催日：2月19日（木）午後1時半～3時
 開催場所：コミュニティプラザ会議室4
 参加者：9名

4月1日から青切符が適用されて反則金が取られるようになる自転車のルールを、まずボランティアから知っておこうと摂津警察署の方に来ていただき「自転車講習会」を行いました。その後、各日本語教室のボランティア同士で手作りの教材や自分たちで集めた資料などを紹介し合ったり、お互いの教室活動を伝えて交流を行いました。



日本語学習者のための「自転車講習会」

講師：摂津警察署署員
 開催日：3月19日（木）午前10時～11時15分
 開催場所：コミュニティプラザ会議室5・6
 参加者：学習者5名、ボランティア12名



一時停止マーク

日本語学習者の方に向けた「自転車講習会」を開催しました。「一時停止のマークは必ず止まる」「スマホを見ながら自転車に乗らない（歩きスマホも駄目）」「交通事故にあった時は必ず119（けが）か110（けががない時）に連絡をする（多言語対応をしている）」などの話を聞きました。また、通行は通常車道の左端ですが、危険な場合は歩道を走っても大丈夫。ただし、歩行者優先なので止まれる速度で乗らなければならないなど教えていただきました。

じてんしゃ いはん ほんそくきん ねん がつ ついたち
 自転車の違反 反則金 (2026年 4月 1日から)

「ながら運転」 <small>うんてん</small>	1万2000円 <small>まん えん</small>
遮断機下りた踏切立ち入り <small>しゃだんきお ふみきりた い</small>	7000円 <small>えん</small>
信号無視 <small>しんごうむし</small>	6000円 <small>えん</small>
歩道通行・逆走 など <small>ほどうつうこう ぎやくそう</small>	6000円 <small>えん</small>
一時不停止 <small>いちじふていし</small>	5000円 <small>えん</small>
ブレーキ利かない など <small>き</small>	5000円 <small>えん</small>
傘差し・イヤホンで音楽 など <small>かささ おんがく</small>	5000円 <small>えん</small>
無灯火 <small>むとうか</small>	5000円 <small>えん</small>
並んで走行 <small>なら そうこう</small>	3000円 <small>えん</small>
2人乗り <small>ふたりの</small>	3000円 <small>えん</small>

コロナ渦も終息し、世の中も少し落ち着いてきたように感じているこの頃でしたが、「日本ファースト」などと叫ぶ政党が出てきたりと、またまた外国籍を持つ人々の心は穏やかではない日々が続いています。私の心もどうも前に向かない、寄る年波のせいかとも思い悩む事が多くなりました。しかし、青少年の交流体験を応援したことや、自身の大きな経験は、私の心や身体に資産として残っています。大きく変わりゆく中国ですが雄大な風景、はじめて降り立った蚌埠の駅、古くても豊かな人々の暮らし、庭に咲いていた草花、交わし合っ



た笑顔、忘れることはありません。オーストラリアは、ここも青少年交流に力を注ぎました。澄み切った青空、環境が素晴らしい学校、真っ赤に花咲く木々の下で食べたお弁当、マツト先生の日本教室の充実には本当に驚かされました。先生お元気ですか、頑張っているしやいますか。現在交流は止まっていますが、必ず再開されますようお願いしております。私は永年の思いは、摂津のコミュニティプラザの1階に大きなモニターを設置し、会場で学ぶ学生たちと交流都市である中国蚌埠市、オーストラリアのバンダバーグとのズーム交流を夢見ています。このモニターから世界に飛び出す子供たちを応援しています。実現できればいいのですが...。若者よ！羽ばたくには英語が必要。大きな夢を抱いて、世界に飛び出さない。



南太平洋のラバウルに残る日本

はらだでか（パプアニューギニア大学准教授）

まいどです。日本のみなさまは、ラバウルという地名は聞いたことがあると思います。ラバウル小唄や、永遠のゼロの舞台にもなった南太平洋の真珠湾とも呼ばれた、このラバウルは、ここパプアニューギニア（PNG）のイチ地方都市なのです。太平洋戦争中には、多くの日本の兵隊さんが、ここに進出し、また地下壕を含めて、たくさんの戦争遺跡も今なお残されているのですが、ゲゲゲの鬼太郎で有名な水木しげるさんも、当時は、ここラバウルでの陸軍兵で、その当時、地元の人たちとの交流から、精霊にまつわるいろんな話やヒントを得たというのはあまり知られていません。

また、ここラバウルでは、ソフトボールが大変盛んで、PNGをはじめ、南太平洋諸国でも有数の強豪チームがあるのですが、そのルーツは、米軍もしくは日本軍のベースボールと言われています。手首の強い返しから投げってくる速球は、とても打ち返すことすら出来ません。（現に自衛隊の練習艦隊が戦後初、ラバウルに入港した際に、親善のソフトボール大会を開催しましたが、元高校球児ですらお手上げで、自衛隊選抜チームは惨敗の結果でした）その他、ラバウルであまり知られ

ていない、隠れた日本文化として、^{くわ}鋤の存在があると思います。ここPNGでは、基本的にまっすぐな棒を用いて畑を耕す（というよりは穴を掘るだけ）地域が多いのですが、ラバウルに限って、鋤と同じようなバックホーと呼ばれる農機具を使って引きながら耕す文化があります。また、地元の農機具店でも、金象印の丈夫な日本製のショベルなども売られているのがラバウルの特徴です。1994年の火山の噴火により壊滅的な被害を受けたラバウルですが、今も昔も親日的な、トーライ族の人たちの笑顔は変わりません。いつの日か、日本の援助で作られた、レイナザップトモダチ国際空港（本当の名前です）を使って、ラバウルにもっと多くの日本の方がお越しくださることを心よりお待ちしております。



摂津市国際交流協会

〒566-0021 摂津市南千里丘 5-35

摂津市立コミュニティプラザ 2F

TEL: 06-6319-6251 FAX: 06-6318-6004

Email: office@settsu-saie.org

URL: <https://settsu-saie.org>

開室時刻: 平日 9:30~12:00, 13:00~16:30

(休館: 第4水曜日)

会員募集

●年会費: 個人: 3,000円 / 家族: 5,000円

青少年: 1,000円 / 法人・団体: 10,000円 (1口)

●当協会の事業に無料または割引での参加特典がございます。

●「かわら版」のお届けと催事参加申込みなども優先的に受け付けます。

協会 HP

